



2024

学校だより **本荘** *Smile*

令和6年度 第23号
令和6年9月9日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

新学期スタートその3！各クラスで「詩」の授業が行われていました♪



国語の学習では、各学期の最初に「詩」の授業が行われることが多いです。夏休み明けの本荘小学校でも、各クラスで学年の段階に合わせた「詩」の授業が行われていました。1年生から3年生は、「どう読むか」が中心になっていました。一緒に練習をしたり、どのように強弱をつけるか考えながら読み方を考えたり表現することに力を入れた授業が行われていました。一生懸命に練習をしているこどもたちの姿はとてもかわいらしいものです。高学年になると少々変わってきます。作者のことを調べて、その作品で何を訴えたかったか考えたり、短歌や俳句などの日本独自の作品に触れながら、限られた文字数の中でのテーマは何か考えたり、実際に作ってみたりと思考力が重視された学びになっていました。発達段階を考えた授業ばかりで、満足していた校長先生でした。

私も現役時代は、「詩」の指導には力を入れていました。例えば、「いろんな おとの あめ」という題の詩の授業をしたときは、子どもたちにわかりやすい授業を目指しました。具体的に言いますと、文章中の「はっぱに」「まどに」「かさに」…という「に」に目を向けさせていました。さらに「ぴとん」「ぱちん」「ぱらん」…といった「ん」にも注目させました。いわゆる「韻を踏む」という技法についての指導を行っていたのです。なぜ、このような指導を行っていたのかと言いますと、詩という文学作品は、短い文章に作者の感動や思いを書き綴ったものですので、様々な技法を駆使してつくられているものが多いのです。そして、1年生が楽しんで学ぶことができるものから、6年生でなければ解き明かせないものまで、様々な種類の詩があるのです。ですので、この授業の時は、わかりやすく「韻を踏む」という技法がわかる授業をしたのです。「詩」の授業で大切なことは、子どもたちが、その詩を「いかに読むか」「どのように読み明かすか」「どうやって書いてみようか」といった「問い」をもつことです。その問いをもとに学ぶ中で、表現力だったり、分析力だったり身を付けていくのです。(裏面へ)

「いろんなおとのあめ」岸田衿子

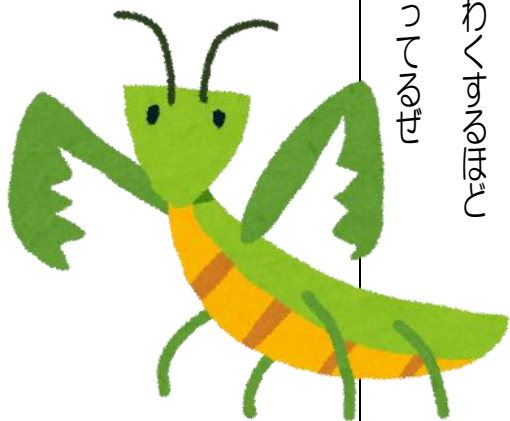
あめ あめ いろんなおとのあめ
はっぱにあたって ぴとん
まどにあたって ばちん
かさにあたって ぱらん
ほっぺたにあたって ぷちん
てのひらのなかに ぽとん
こいぬのはなに ぴこん
こねこのしっぽに しゅるん
かえるのせなかに ぴたん
すみれのはなに しとん
くるまのやねに とてん
あめ あめ あめ あめ
いろんなおとのあめ

本荘小学校では、子どもたちの「思考力、判断力、表現力」を育成することを大切にして授業を行っています。学習指導要領でも、「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」「学んだことを人生や社会に活かそうとする学びに向かう力、人間性など」そして、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など」を「社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、三つの力をバランスよく育みます。」と示しています。

詩の授業も、少し前までは、音読の練習ばかりで、子どもたちに「詩の面白さ」「詩の中にある表現の工夫や技法」「短い文章の中に込められた作者の思いやテーマ」といった内容までいきついていないような授業もあったようです。しかし、本荘小で行われているような授業で、子どもたちは新たな学びを深めていくのだと考えています。教科書の詩を親子で楽しんでみることもお勧めします。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「おれはかまきり 詩の授業」

ちなみに私のお薦めの詩は、工藤直子さんの「のはらうた」シリーズです。図書館や本屋さんで見かけたら読んでみてください。大変面白いですよ。そのなかでも大好きなのがこの詩です。



おれはかまきり
かまきりのりゅうじ
おう なつたぜ
おれは げんきだぜ
あまり ちかよるな
おれの こころも かまも
どきどきするほじ
ひかっているぜ
おう あついぜ
おれは がんばるぜ
もえる ひをあびて
かまを ふりかざす すがた
わくわくするほじ
きまってるぜ

イラストのリンク https://www.virasutoya.com/2013/01/blog-post_3254.html

この詩を読んで、どんなかまきりを想像しますか。詩の内容からは、夏の太陽の光を浴び、誇らしげに、かまを振り上げている力強いかまきりをイメージするのかもしれませんが。

ところがです。以前、この詩を書いた工藤直子さんの講演会があったのですが、ここに登場するかまきり、実は「な かまきり」なのだそうです。工藤さんは、「な かまきり」が「いっちょまえ」に、かまを上げているその姿を見て、この詩を書いたそうです。

この詩は、「な かまきり」への工藤さんの応援歌なのだということです。さあ、どんなかまきりなのでしょう。ご家族で考えてみてください。(校長) ※答えがわかった人は校長室へどうぞ(笑)